

優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業 事後評価結果

研究開発課題名	革新的医療機器の創出から国際展開を目指す「東九州モデル・エコシステム拠点」の人材育成基盤の確立
研究開発代表機関	国立大学法人大分大学
研究開発代表者	穴井 博文

【計画実施概要】

【当初の計画】

革新的医療機器創出と国際展開を見据え、医療機器開発人材、および海外展開を担う人材の育成を目的とした研修を計画した。また、臨床現場の視点を取り入れた開発計画の精緻化を進め、医療機器開発情報発信サイト CENSNET®を通じた情報提供、臨床ニーズのブラッシュアップ、ニーズの鑑別とマッチング、企画立案の検証、さらに適切な KOL 配置により、実効性の高い臨床ニーズ検証環境を整備した。

【成果】

「医療ビジネス研修会」「医看工芸ものづくりワークショップ in おおいた 2025」「国際展開シンポジウム in おおいた」、「医療機器ニーズ探索交流会(ニーズ提示、臨床現場研修)」および「大分医療関連機器開発イノベーションプログラム座談会」を開催した。参加者は延べ 554 名、284 社であった。また、主要事業の動画を作成して CENSNET®で公開した。

【課題】

CENSNET®の自走化、AI を導入した機能強化には、セキュリティ強化等の新たな課題が浮上し、年度内の完成は困難であった。

【今後の方針】

成果のあった人材育成事業の継続および、CENSNET®の自走化、機能強化を優先課題として進めていく。

【評価コメント】

多彩なプログラムの実施、地域に根ざした継続的な拠点運営を着実に実現している点が評価された。

以上